鷹野雅生　議会速報

GASHIN

Vol.12　2015.10

〒614-8011　京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

八幡未来クラブ鷹野雅生です。

本日3番目の質問をさせていただきます。
しばらくの時間、おつき合い願います。

それでは、通告にしがたい質問させていただきます。

この号の内容

1　はじめに
2-3　ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画
4-5　ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画　答弁
6-7　農業振興
7　農業振興　答弁
8　ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画　要望
9　ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画
再質問＆答弁
10　農業振興　要望

"GASHINとは"
GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園 サービスセンター整備計画

1つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

+++++　背割堤の多面的な展開を図る　+++++

現在、木津川、宇治川、桂川の三川が合流する背割堤地域において、国土交通省淀川河川事務所では、背割堤地区公園サービスセンター整備計画があり、サービスセンターの施設整備や景観、観光面における利用、活用などについて、学識経験者や地域の関係者らが助言を受けることを目的とした三川合流域拠点施設検討委員会が、国土交通省淀川河川事務所によって設置され、委員会が開催されています。
これまでからも質問をさせていただいたように、背割堤は春の満開の桜はもとより、新緑の季節や桜の紅葉の時期まで、四季折々の魅力を味わうことができます。また、桜だけでなく、河川敷にはヨシなどが茂り、野草や野鳥、昆虫が多く見られるなど、豊かな自然環境に囲まれ、都市近郊では貴重な自然の宝庫で、散策だけでなく、サイクリングやジョギングも楽しむことができます。
この地域は、活用方法によって体力づくりや健康づくりの場所、人と人とのコミュニケーションや、きずなを深める場所ともなり、今計画されているサービスセンターは、先人の取り組みや自然災害の学習、災害時の拠点施設だけでなく、この地域を幅広く活用するための拠点にもなります。
八幡未来クラブは、7月 29 日、30 日、木曽三川公園センターと岐阜県海津市役所に視察に行ってまいりました。木曽川公園センターは、木曽川、長良川、揖斐川からなる木曽三川合流域に深いかかわりを持つ愛知、岐阜、三重の東海地方の人々が豊かな木曽川三川合流域の流れに親しみながら、地域に対する意識を高める場として、そして、東海地方における広域レクリエーションの核として、昭和 55 年に設置されています。
ここに設置されている水と緑の館やタワーには、年間 130 万人の人が来られているとのことです。私もタワーに上がりましたが、65 メートルのタワーからの 360 度のパノラマの風景、そして壮大な木曽三川の眺めは最高でした。
水と緑の館では、木曽三川合流域の治水の歴史を学ぶところ、そして参加型で楽しんでいただけるようにゲーム感覚を取り入れた展示、ペダルをこぎながら木曽三川の上流に向かって旅をしようといった展示物もありました。
２日目は海津市役所で研修を受けた後、歴史民族資料館に移動して、オオエ緑道のシンボル的な事業である堀田の再生に関する資料を実際に見学しました。海津市は木曽川、長良川、揖斐川の三つの大きな川の下流に位置し、市内の多くの地域は海面より土地が低くなっています。
そのため、昔から水害に悩まされてきました。ここに住む人々は、輪中と呼ばれる土地をつくるなどの工夫や努力をして暮らしてこられました。昔から米づくりはさかんでしたが、水はけが悪く、稲をつくるのに苦労されました。そこで、輪中の水田では、水はけを良くしようと、堀田を作るなどの工夫をしてこられました。輪中とは、周りを堤に囲まれた低い土地のことをいいます。
土地が輪の中にあるように見えるので、こう呼ばれました。治水という面では非常に歴史のある川です。こういった歴史のある堀田の再生は、海津市のシンボル事業としてこれから推進されます。
海津市では輪中の中の池や川をレガッタの競技やヨットの練習場、釣りの施設などに利用されています。また、川魚を使った料理や観光などにも力を入れているとのことでした。
八幡市には背割堤という最高の舞台、最高のスポットが存在することを改めて認識し、多面的な展開を図っていただきたいと考えているところです。何よりも時代のニーズに合った観光地、八幡のたからとなるべき観光スポットであると思います。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園
ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画

１つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

+++++　背割堤の多面的な展開を図る　+++++

そこで、４点質問させていただきます。

質問

① 三川合流域拠点施設検討委員会について

⇒三川合流域拠点施設検討委員会が、既に第4回開催されています。
これまでの経過報告と今後の取り組みについて教えてください。

② サービスセンターの施設設置内容について

⇒琵琶湖淀川事務所の水の恵み館では、防災体験施設として雨体験室を設置されています。
そこで、サービスセンターに防災体験ができる施設や、自然の宝庫という貴重な環境から、淀川流域淡水魚の館など、環境学習の施設を設置してはいかがでしょうか。
また、水面利用によるスポーツ振興と青少年育成の場として、ボートやカヌー、カヤック、イーボート等、水面上施設として会議の場での提案はあるのでしょうか。
もちろん市の施設ではないので、市が設置するものではありませんが、今提案した内容に対して、必要か否か、市としてのお考えや、設置に向けての国への要望等についてお答えください。

③ センターの運営と背割堤の活用などについて

⇒サービスセンターの開設は八幡市の観光資源の一つにもなることから、積極的な関わりを持っていただきたいと思います。
センターの運営と背割堤の活用などについて、どのように進めようとされているのかお聞かせください。

④ まちの活性化に向けてのＡＥＤ設置の検討について

⇒サービスセンターが開設されることで、今後背割堤地域でのイベント等の開催の増加が期待されます。行政の主催事業ならまだしも、NPOなど市民団体等がイベントを開催する場合、会場へのAEDの設置が大きな悩みになっています。
背割堤地域におけるイベントのみならず、まちの活性化に向けて市内各地で開催される事業に対し、AEDの貸し出しが必要不可欠と考えるのですが、市としてのお考えをお聞かせください。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園
ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画

１つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

++++++　背割堤の多面的な展開を図る　++++++

答弁

① 三川合流域拠点施設検討委員会について

⇒三川合流域拠点施設検討委員会は平成 28 年度開設を予定されているサービスセンターの景観や観光面の利活用などについて、学識経験者や地域の関係者から助言を受けることを目的に国土交通省が設置されたものです。

第１回目はこの施設に持たせるべき機能の確認、建物外観や周辺の景観、観光などに関する特性や課題の整理などが行われました。

第２回目は、平面図の案や建物パースが示され、町屋や酒蔵をイメージした和風建築物の管理棟と、高さ 25 メートルの展望塔、バスの駐車を考慮した駐車場、多くの自転車での来訪を考慮した駐輪場などのデザインや色調などについて議論、検討が行われました。また、本市の要望に応じていただき、太陽光パネルによる発電システムを盛り込んでいただいたところでございます。

第３回目では、管理棟のさらに細かな設計案が示されるとともに、展望塔の設計方針の確認などが行われました。また、解説後の利活用についての課題整理が行われました。

第４回目は、展望塔の設計デザインについての議論があり、シンプルなパイプ形状の斜め材を使用したものと最終的な決定がなされました。また、開設後の集客、施設を使いこなす仕組みについての検討についての報告、意見交換などが行われました。

今後、詳細設計が行われ、工事発注に向けた準備を進めると国土交通省から伺っております。

施設の利活用につきましては、第５回目以降の検討会において、他の河川公園での取り組みの確認や検討を加えることとされております。

また、現地において実験的な催し物の取り組みも計画していると伺っております。

②サービスセンターの施設設置内容について

⇒これまでサービスセンターに持たせる機能として、水洗トイレや会議室のほかに自然や歴史の体験学習、また防災情報の提供や市民活動を披露できるスペースの確保などを国土交通省に要望してまいりました。これを受け、サービスセンター管理棟内には、防災情報を初め、さまざまな情報発信ができる除法発信スペース、小・中学生の自然学習にも利用できる多目的の学習室、また、市民活動に対応したステージを持つイベント広場が設置される計画となりました。議員ご案内の防災体験や自然学習のための施設の重要性は認識しているところでございますが、先ほど答弁いたしました情報発信スペースなどを利用してどのようなことができるのか、今後、国土交通省とともにソフト面の検討をしてまいりたいと考えているところでございます。

ボートやカヌーなど、河川整備の利用についての具体の取り組みについての議論は、これまでの三川合流域拠点施設検討委員会ではなされておりません。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園
ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画

１つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

+++++　背割堤の多面的な展開を図る　+++++

答弁

③センターの運営と背割堤の活用などについて

⇒サービスセンターの運営につきましては、淀川河川事務所にて行われることになっております。なお、サービスセンターの利活用につきましては、観光バス会社との事業連携、サイクリングロード利用者の取り込み、雨天でもマルシェ等が開催できるイベント広場等を活用し、三川合流域のランドマークになるよう、本市及び観光協会が積極的にかかわる所存でございます。

背割堤地区の活用につきましては、観光協会主催の春の桜まつり、七夕まつり等、ふれあい交流実行委員会主催の夏の淀川三川ふれあい交流、納涼七夕まつりに取り組み、多くの方に来場いただいております。今年の秋に淀川河川事務所が開催に向けて調整を行っている仮称背割堤秋の満喫プランは、背割堤でのピクニックやバーベキューを楽しんでいる方に、地元野菜や加工品、地元産ジュースの販売や気球乗船体験、おもしろ自転車の貸し出しなど、実施に向けた調整を現在行っているとお聞きしております。

今回の取り組みは、秋の行楽シーズンに新たに立ち上げることにより、背割堤地区のさらなる活用可能性とサービスセンターのオープンに向けた広報を行うものです。

この催しは、食を切り口とした収益性プログラムと、背割堤のストックを活用した遊ぶ楽しみプログラムをコラボレーションし、仕入れから販売、また規模の検証を行い、サービスセンターオープン後のプログラムを実施の手法として行われます。

本市はこの事業のプログラムチームに参加し、PR等も積極的に協力してまいりたいと考えております。

④まちの活性化に向けてのＡＥＤ設置の検討について

⇒背割堤のイベント開催時のAEDの利用でございますが、サービスセンターが開設されましたら、AEDの設置をされると聞いており、ご利用いただけるものと考えております。

また、市内でのイベントの開催時でございますが現在、市内の公共施設で 63 カ所、さらにご寄附をいただいたものではございますが、今年度で全自治会に配置いたしましたので、その活用をお願いしたいと考えており、AEDの貸し出しについては考えておりません。

農家支援
八幡産京ブランド
農産物の高温対策

農業振興

2つ目の大きな柱「農業振興」

+++++　教育環境の充実　++++

本市農業は都市近郊消費地という立地条件を生かした農業経営が展開されており、野菜、米、花、お茶などが栽培、出荷されています。また、ビニールハウスや鉄骨ハウス、各種農業用機械の導入など、設備投資した高投資型農業経営が行われています。統計を見ますと、八幡市には販売農家が、専業農家 120 戸、兼業農家が 215 戸あります。そして、自給的農家が 200 戸ぐらいあると聞いています。農地の作付面積としては、耕作地全体の半分以上を米が占めており、次に野菜となっています。

稲作栽培につきましては、本市の昨年度の水稲の作付面積は 262 ヘクタールで、品種の大半を占めるヒノヒカリをはじめ、キヌヒカリ、ニコマルも栽培され、市全体の収穫量は 1,390 トンです。
自給的な消費、販売もありますが、集荷業者であるJAの米の買い取り価格が低迷し、魅力ある品目になっていません。本市の作付面積の半分以上を占める米の取引価格の低迷は、八幡市農産物の生産意欲の減退につながることが想定でき、支援が必要だと考えます。

野菜につきましては、都市近郊という立地条件を生かし、ハウス栽培など施設園芸作物の投資型経営が行われ、京ブランド野菜の九条ネギ、ミズナ、エビイモ、また、山城地域推進品目でありますコマツナ、ホウレンソウ、ナス、キュウリなどが生産、出荷されております。最近ではネギやコマツナ、ホウレンソウの生産が増加傾向にあります。
今までの推移を見ても、野菜そのものの需要はこれからも減らないと思います。
野菜は契約取引もふえてきましたが、市場出荷が中心であり、価格の変動は現れやすいです。
八幡市として、都市近郊の立地条件の中で、どのようにして野菜作りの農家支援をしていくかが重要だと思います。
さらに、販売については、いまある既存の販売形態だけでなく、多様なチャンネルの販売、例えば市場出荷だけでなく直売所、契約出荷、用途としても、消費者が購入する生食用だけでなく加工用、業務用など、充実が必要です。
特に業務用野菜は、安心・安全の観点から企業が国内産の農産物にシフトする傾向があります。
本市に加工場等を構える外食チェーンや、総菜等中食を扱うところに対し、地産地消の観点から、八幡市産のすぐれた農産物のとアピールを進めるべきであると考えます。

八幡市は都市近郊の立地条件の中で、生産農業者となる担い手の育成・確保を図るとともに、パイプハウスやネットハウス設置などへの支援、また、野菜の出荷袋により八幡市であることをPRしていただいています。お米については、こだわり米について、農協出荷のときの上乗せ一等米 500 円前、二等米 200 円の助成をしていただいています。
今後もこれらの取り組みに対し支援の輪を広げていただきたいと思います。

そこで、3点質問させていただきます。

農家支援
八幡産京ブランド
農産物の高温対策

農業振興

2つ目の大きな柱「農業振興」

質問

① 米生産への支援について

⇒米については自給的な直売もありますが、JAや市場における取引価格は低迷しています。本市の作付面積のも半分以上を占める米の低迷は、八幡農産物の生産意欲減退に直結し、地域の農地の維持管理にも影響を及ぼす可能性があります。
地域の農業を考えたときに、米が全て野菜にシフトすることはないと考えます。
JAやましろでは、こだわり米から高品質米である特別栽培米生産への移行を進めていますが、市としては今後どうされるのか、お考えをお聞かせください。

②八幡産京ブランド野菜生産に対する支援について

⇒地産地消を推進する上で、外食チェーンや総菜等を扱うところに出荷する業務用野菜や八幡産の京ブランド野菜生産に対する支援についてのお考えをお聞かせください。

③農産物の高温対策について

⇒近年、地球温暖化に伴い、猛暑や自然災害がふえ、農業経営に影響が出ていると思いますが、環境の変化に対応した支援策について、市のお考えをお聞かせください。

答弁

① 米生産への支援について

⇒山城産米改善運動推進本部及びJA京都やましろは、消費者が求める安全・安心でおいしく売れる米づくりの産地確立を目指し、平成 27 年度から化学合成農薬及び化学肥料の窒素成分を慣行レベルの2分の1以下に削減して生産する特別栽培米の取り組みを推進されております。平成 29 年度には、今日まで推奨してきましたこだわり米から特別栽培米へ完全移行されると伺っております。市といたしましても売れる米づくりを推奨し、特別栽培米につきましてもこだわり米同様に支援してまいりたいと考えております。

②八幡産京ブランド野菜生産に対する支援について

⇒地元の農作物が使用されることは本市の野菜生産を拡大するものであり、新たな野菜生産地の形成にもつながるものと考えております。業務用に地元の農作物が使用されることは、地産地消の推進や地元農産物のPRにつながることから、JAと連携し、地元の農産物を使っていただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。また、引き続き、八幡市産の京ブランド野菜等の生産拡大への取り組みに支援してまいりたいと考えております。

③農産物の高温対策について

⇒これまで猛暑や台風等による自然災害の影響により、農作物の減収や品質低下、育成不良などに対して、京都府が肥料、農薬、種苗、土壌改良用資材などの購入費を助成する緊急支援制度を創設され、市も事業費の一部を助成させていただきました。市といたしましては、これまでと同様に農作物の生産に影響を受けている農業者の声をお伺いする中で、支援について検討してまいりたいと考えております。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園
ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画
要望

１つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

要望

① 現在、背割堤地区の桜は、インターネットまたテレビや新聞など、さまざまなメディアを通して有名となり、名実ともに関西を代表する観光スポットになっております。この素晴らしい自然あふれる背割堤を春の短い期間だけで終わらせる手はないと考えます。その中で、このサービスセンターの設置は、本市観光行政において、春はもちろん、春以外の季節における観光の大きな起爆剤になると考えています。８月に琵琶湖河川事務所、水の恵み館とアクア琵琶に行ってまいりました。アクア琵琶は雨が降る強度が体験できる施設があります。30 ミリの雨は霧雨みたいな感じで、100 ミリではバケツをひっくり返したような雨が降り、バタバタとすごい音が鳴りました。ゲリラ豪雨を体験しました。時間雨量 100 ミリの雨の怖さを体験することができました。80 ミリ、100 ミリがどういう降り方をするのか、よくわかります。雨体験教室では、親子、子どもの体験参加が多く見られました。
子どもたちにとってもいい体験になります。こういった防災体験施設や淀川水系、桂川水系、木津川水系、琵琶湖水系の淡水魚の館の設置は、見学や子どもの学習施設としても多くの利用が期待できるのではないかと思っております。
三川合流域拠点施設検討委員会には、委員として丹下副市長、また観光協会事務局長も参加されていると聞いております。今後の委員会で将来の利用、活用についての議論を深めるともお聞きしています。

⇒三川合流域拠点施設検討委員会において、ボートやカヌーに限らず、アウトドア型の観光、体験型の観光が１年を通じて楽しめるスポットとなるような仕組みづくりに関係する意見などの議論をお願いしたいと要望させていただきます。

② 次に、AEDにつきましては、公民館や公会堂など各施設に置いているところもありますがそのような施設以外でイベントや事業を開催される場合に、１分１秒を争う場面になったとき、手元にAEDがあれば、大切な命が助かる確率が高くなると思います。

⇒現在、消防でAEDの講習会をやっておられると聞いています。その貸し出しの条件として、事業をされる団体の責任者などにAEDの講習会を必ず受けてもらうことにしてはどうでしょうか。講習会を受ける人をふやすことによってAEDの知識を持った人がふえれば、いいことだと思います。貸し出しと講習会の受講をセットにして実施すれば、市民の方々の啓発にもつながると思います。
検討していただきたいと思いますが、先ほどの答弁で、貸し出しについては考えないということでありますので、これについては要望とさせていただきます。

背割堤
観光スポット
センターの活用法

背割堤地区公園
ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ整備計画
再質問と答弁

１つ目の大きな柱「三川合流域の活性化について」

三川合流域は自然の宝庫で、背割堤の桜は全国のお花見スポットランキングでいつも上位になっており、八幡市の中でも全国に自慢ができる観光スポットの一つです。その場所に新たにサービスセンターが設置されることにより、ますます魅力が高まります。
第一に、八幡市の観光スポットの一つとしてPRすることが大事だと考えます。
国の施設ということで、ハード面が整備されても、ソフト面まで十分な対応は期待できないと耳にします。本市が観光振興の実動組織として、これまで積極的な活動をされてきた観光協会が、地元の組織としてサービスセンターの運営や背割堤の魅力アップに深くかかわりを持たれることで、八幡市のPRや雇用の創出にも結びついてくるものと思います。
　せっかく開店された駅前のお土産店も閉店され、観光客を迎える駅前がサービス面で後退しました。せっかくサービスセンターへかかわりや魅力づくりに観光協会として話し合いも持たれているのですから、駅前のお土産店のように立ち消えにならないよう、市としても積極的な協力が必要であると思います。

そこで改めて質問をさせていただきます。

再質問

①背割堤にかかわる観光連携について

⇒観光協会や淀川河川事務所などの関係機関との観光連携について、市としてどのように考えておられるのか、質問させていただきます。また、多くの観光客に来ていただくためには、背割堤の魅力づくりとPRが必要不可欠です。観光協会で進めようとされているサービスセンターへのかかわりや背割堤の魅力づくりに市としてどのようなかかわりを持たれようとしているのか、お考えをお聞かせください。

答弁

観光協会や淀川河川事務所などの関係機関との背割堤に係る観光連携につきましては、観光協会とともにパンフレットやホームページなどによる観光情報の発信を進めまして、背割堤の誘客に向けての取り組みに協力してまいります。
また、サービスセンターや背割堤の魅力につきましては、観光基本計画に基づき、観光協会と取り組みを進めてまいりたいと考えております。

農家支援
八幡産京ブランド
農産物の高温対策

農業振興
要望

2つ目の大きな柱「農業振興」

農産物の高温対策については、ことしも5月、6月から温度が上がり、7月には猛暑になりました。農産物にもアザミウマなどの病害虫がつきまして、品質が低下した農家が多いと聞いております。
天候は、自然相手だけに読めないところが多いと思いますが、環境の変化で農業経営に影響を及ぼすことがあれば、支援をしていただけますように、よろしくお願いいたします。
　米づくりに関しては、全国の米づくり農家がその土地ならではブランド米の育成と販売に力を注いでおり、ブランド力が販売力となり、それが実績となって数字にあらわれています。
八幡市においても、より品質の高い八幡産農産物をふやし、そのPRを積極的に展開することで、農家所得の確保を図っていくことが大切だと考えています。
特別栽培米は育苗が難しく、一定のルールに従って栽培しなければいけません。
技術そしてコストやリスクなどが伴います。
特別栽培米などの取り組みは、品質の高い八幡産農産物のPRと農家所得の確保のためにも推進すべきだと思います。
具体的には、お茶で先行されているギャップと呼ばれているGAPなど、食の安心・安全の見える化、つまりアクシデントの発生リスクをできるだけ減らすことや、誰にでもわかるようにする仕組みづくり、どこで誰がつくっているかを誰にでも分かるようにすることで、食の安心・安全が理解されます。

要望

⇒このような取り組みにはコストやリスクが伴います。
　さらなる改善に向けて努力がなくてはなりません。品質の高い八幡産農産物をふやすPRを積極的に推進、展開するためにも、現在の取り組みをさらに発展させ、市としても支援をしていただきますように要望します。

　ありがとうございました。